

## 知事と区市町村長との意見交換（渋谷区）

令和1年10月1日（火）

16時50分～17時10分

○**行政部長** それでは早速ですが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○**知事** 今日はお忙しいところ、都庁にお越しいただきまして誠にありがとうございます。長谷部区長におかれましては、今お話がありましたビジョンで今後の東京はどうあるべきなのかということから、いろいろと御意見を賜りました。ちなみにビジョンの皆さんの夢は、今この45階の展望室で未来が見えるという、そういう展望台じゃなくて、何と云うんですかね、双眼鏡として出ておりますので、どうぞお帰りの際、草間彌生さんのピアノも見ながら、ぜひ御覧いただければと思います。

ということで、まさしく将来どうあるべきか。長期戦略、そのビジョンの策定作業でございまして、渋谷区の戦略、そしてまたどうあるべきなのか、どうしたいのかといったようなところを、お話を伺わせていただきます。よろしくをお願いします。

○**行政部長** では、区長、よろしくをお願いいたします。

○**渋谷区長** 本日はこういった機会をいただきまして、まずはありがとうございます。ちょっと時間もないので、早速中身に入りたいと思うんですが、長期戦略、我々のビジョンと重なるとも非常にたくさんあって、期待をしております。

今回、具体的に2つのポイントで持ってまいりました。1つは代々木公園を含めて都立公園大改革という、その号令の下いろいろ進むというふうに期待しております。渋谷区の場合は都立公園は代々木公園がありますので、ここをどう活用していくかってことが渋谷区のまちづくりに大きく寄与するものであります。場所的にもど真ん中、渋谷区の真ん中にありますから、ここは一緒になって考えていきたい。

それともう1つ。ここのそばでちょうど甲州街道の中野寄りの所にずっと、水道道路という都営団地がある、その一帯があるんですけど、そこをどういうふうに今後考えていくかというところを、今日はお話させていただければと思います。

渋谷区のまちづくりの大きなビジョンとしては、ちがいをちからに変える街、これが基本構想の一番上にくる言葉です。ダイバーシティインクルージョン、こういったものを多分に意識したまちづくりです。

その中でやはりもう1つ考えていかなきゃいけないのは、この多様性を評価している人達に選んでもらうまちであるべきだということです。6月末にニューヨークに行く機会がありまして、行ってきました。その時は一番大きな目的はLGBTQのパレードが向こうで、50回を記念するパレードがあって、渋谷区が日本で最初に証明書を発行したことを評価していただいて、市議会で表彰を受けたり、国連に行ってお話をしたりとか、パレードの参加以外にもいろんな機会をいただいてまいりました。

そこで感じることは、やはりニューヨークもシティプライドがたくさん集まったまちで、

シティプライドと訳すと、割とこう、「郷土愛」とか、そういうふうになってしまうところもあるんですけども、都心は何年もそこに住んでる人は何代も少なく、新しく来る人達がどういうふうにプライドを持っているか。それはやっぱり多様であるってことに対して、そのまちの多様性にプライドを持ってそのまちで住んだり、働いたり、活動している。それが大きな原動力だというふうに、改めて思いました。

ですので、渋谷のこういった多様性を推進する政策が非常に高く評価してもらってました。これは自分達が思ってたよりも評価してくれたので、大変嬉しかった部分と、逆を言えば、まだ日本はこの分野は遅れているんだなっていうふうに捉えられているとも取れて、嬉しさとちょっと苦々しさが交わったような感想でした。

ですので、我々目指す先としては、当然多様性を評価され、してる人達に集まってもらう、選んでもらう都市っていうのが必要だろうと考えています。

もう1つはその多様な価値を育む舞台を作っていく必要があるだろうということです。もう少し歩く人が中心のまちづくりを、これから考えていきたいというふうに思っています。そうすると歩行者天国とか、あそこも多様な人達が混じり合いながら新しい価値、文化を発信しています。

あとは道玄坂、宮益坂というスクランブル交差点を通り過ぎていく道が、実は渋谷の旧大山街道という一番メインストリートだったので、これから大きなビルが出てきますけども、渋谷の目抜き通りとして原宿で言うと表参道のような存在として、その大山街道の整備も考えていきます。

ここは区道ですので、我々が中心となってやっていきますが、車線を狭くして歩道を広げていたりとか、そういった活動の中で警察とのやり取りもありますので、また援護射撃をいただけるとありがたいかなと思っております。

その先には、代々木公園があります。これからまちにもっとエンターテイメント、クリエイティブ、イノベーションというようなキーワードに触発されるような出来事や人がもっと集まってくる中で、特にそのエンターテイメントの象徴として、代々木公園に一つスタジアムが欲しいというふうに考えているのと、もう一つは岸体育館の跡地になりますけども、そこの活用の仕方について、地域の事情をちょっと汲んだ、また、それがまちづくりの原動力となるような公園の改修をしていただきたいということを考えています。

代々木公園は、先ほど言ったように渋谷区のだ真ん中にある公園です。今でも多くの区民、都民に使われている公園ですが、ここをもっともっと使い勝手を考えていく、もっともっと可能性があるというふうに思っています。

めくってください。これは、代々木公園の僕らの将来のイメージ図なんですけども、奥にあるのが代々木の競技場ですね。2つ体育館が今あります。手前は織田フィールドとサッカー場があるエリアなんですけども、NHKの前ですね。あそこを全部緑化してる絵なんですけども、実は次をめくると、あそこがスタジアムになってるんです。森の中、古墳のようになっていて、その下にスタジアムがあるという設計になっています。こうすれば緑も増えますし、また屋根付きということであれば外に音も漏れずに、スポーツからエンターテ

イメントから、3万人規模のものができるのではないか。

ここの場所にこれが作れば、稼ぐ東京という文脈からも、税金を使わずに企業の出資を集めながら可能性を探れるんじゃないかなというふうに思っています。

やはりここは東京都の管理下にある場所ですので、これは一つ悲願でもあるんですけども、一緒になってここをちょっと前に進めていただければというふうに思いますし、まだこれをやりたいなという人達をもっともっとたくさん声を、我々の方で集めてまいりますので、それをできれば今年度中に知事の方にお届けしたいなというつもりで、今やっております。

もう1つ。あとはさっきお話した、水道道路のお話です。実はこの水道道路の両サイド、もっと言えば甲州街道の両サイドは渋谷区の住民の半分以上が住んでるエリアなんです。

甲州街道の中野寄りの所はさらに昔、谷が下がっていて川があったり、よく氾濫してたエリアでもあったりするので、長屋や工場や木密エリアがまだ残っているエリアです。

我々で言う、貧困を含めて生活の中で暗い話題のちょっと多いエリア、課題が多いエリアではあるんですが、これを前向きにどういうふうに課題を解決していくかってことを考えています。

そこにはやはりこの Society5.0、これから IOT がもっともっと進んでくる中で、そこで起きるイノベーションを使いながら、どんどんチャレンジしながらこの課題に取り組んでいきたい。

シリコンバレーとサンフランシスコみたいな環境を考えると、渋谷駅周辺がサンフランシスコのようになってきているというふうに思います。大きな IT 系の企業がどんどん集まってきています。

スタートアップが今どこに集まっているかっていうと、渋谷周辺にも当然たくさんいるんですが、今ちょっと飽和状態になってきています。特にスタートアップの中でもこれから我々が注目しているのは、ソーシャルアントレプレナーって、社会起業家といわれる人々。NPO、NGO をやってる人々。これが非常に IT と親和性の高い人達です。

そういった人達はもっともこの大きなお金を動かすというよりは、社会の課題を解決してることが目標ですので、その課題が詰まったエリアを実験都市というか、指定エリアにして、ここは全てもうインターネットが繋がるふうに、区の方で例えば整備をして、都営団地の空いてる部屋とかにそういった方々に入居してもらって、その IOT の環境の中で、例えば高齢者がお一人で住まってる所があれば、もうその IOT の環境の中で見守りもしてしまうとか、または自動配達で何かを運べるようにするとか、IOT を使うことでかなり生活を支えることができるし、いろんな課題が解決できると思います。

ですから、環境を東京都と一緒に渋谷区と整備して、そこにそういった起業家達を集めていく、そんな戦略が取れないかなというふうに思っております。ここは立地的にも渋谷駅にも車で20分くらいで行くところですし、もっと言えば、この都庁にも10分くらいで来れる場所です。

NPO とかは都庁の権限の下でやっていますので、そういった所で、近い所にあって社会課題

を解決していく場所が作れたら。ここで出来た課題を解決できれば、これは東京中に、日本中に広げられると思いますし、もっと言えばアジアにも広げられるというふうに思っております。

世界の中の都市として東京が立っていくために、渋谷は一緒になってこういった企画を前に進めながら汗をかいていきたい。そういうふうに考えております。ざっとでございますが、説明させていただきました。

ちょっとおまけだけ。

○知事 おまけ。

○渋谷区長 おまけが1個あって、今日の本題に入っていないですが、これは、何の絵か分かりますか？ハロウィンの時の渋谷駅前なんですよ。

去年ちょっとああいう問題もあって、渋谷区の方では警備含めて1億円ぐらいの、今、予算をこないだの議会で計上して補正を通過しました。ですが、調べると渋谷区民はほとんどいなくて。東京都民、またこの周辺の人達が集まって来てちょっと騒いでいるところがあるんです。ちょっと区税収入で運営している渋谷区としては、区だけではちょっと、もちろんやりますけども、少し薄めていただくということで、東京都の方でその辺も助けていただけるとありがたいかなというふうに思っております。これはちょっとおまけで、お願いを付けさせていただきました。

○知事 まず代々木公園、以前から何度も伺っております。防災上、重要な拠点というか、私は、うちを出てから板橋、の防災の城北。

○渋谷区長 あ、発災したとき。はいはい。

○知事 はい、発災したとき。で、あそこに。

○渋谷区長 代々木公園。

○知事 代々木公園。あそこにへりで降りる所なんで、ある意味防災の拠点なんです。だからそこをどういうふうに今のアイデアと、あと経営面の問題等を、まず区の方でよく揉んでいただいてということが先決ではないかと思えます。

それから岸体の後ですけれども、公園審議会の答申で、賑わいの拠点となる公園ということで、2020大会で新しいスポーツも出てくる中で、宮下公園の所でスポーツのされる。うまく重ならないように、若しくは何かうまく連携してできるようになればいいのではないかなと思っております。

それから水道道路沿いの都営住宅の件ですけれども、今、耐震改修工事を進めているところです。併用店舗があって、そこが空いているという話で、国に対しての所要の手續というのを進めて、区に使用の許可をするということは可能です。ということで区のお考えを、今お話がありましたけれども、今後意見交換もさせていただく。この件も前にちょっと伺っていたので、敢えてお伝えをさせていただきます。

それから水道道路はバス通りでもあって、車や人通りが大変多いんですね。歩行者天国、イベント開催等々、安全性の確保等の課題もあるとは思いますが、都としても可能な限り協力していきたいと思えます。

でも区民がいないといっても、結局、渋谷の賑わいは皆でつくっているわけですから、またハロウィンが楽しいものになるように、いろいろ工夫をしていただきたいと思います。

○行政部長 区長、いかがでしょうか。

○渋谷区長 まず、代々木公園については僕らのスケジュールどおり進めてみたいと思っております。

岸体育館の跡地については、裏の水道局の土地の所も、最初、東京都からいただいた絵だと、一体的にデザインをされていたんですけども、今、サウンディングが出ているところは岸体育館の跡地だけなんですよね。

それで伺うと、水道局のところが利用できるのが少し後になってしまうような話を聞いてるんですが、それはそれで構わないんですけども、多分宮下公園も実は大きくつくって、下に商業施設を置いて、上に公園をつくるおかげで、収益が上がるんですよね。

この渋谷という立地を考えていただいた時に、あそこはちょっと坂道になっていますので、裏の土地がうまく利用できると、立体都市公園が多分出来るんだと思うんです。そうすると、1階部分を店舗にしたりとか、上の公園機能と、ちょっと関係するようなお店づくりができれば、かなりの収益が上がると思うんです。

であれば、その収益を元に、今後その周辺の整備だったり、運営が賄えると思うので、稼ぐ東京という意味で僕らはあそこをちょっと考えられたらいいなと思っております。

宮下公園の方のスポーツ施設は、今考えているのは砂のサッカー場みたいな、ビーチサッカーコートを作ろうと思っております。ビーチサッカーのコートであれば、ビーチバレーもできますし、都心に砂場があるってことは結構面白いと思うのと、休みの日であれば子供達が巨大砂場で遊びましょうみたいなイベントもできると思うので、新しいそういったことを考えてます。

スケボーについては小さいスケートボード場をつくるんですけども、この渋谷ってストリートカルチャーのメッカと思われていて、いわゆるスケボー系だったり、スリーパイスリーのバスケ系のファッション店がたくさんあるんですよね。

なので、その力を結集したいなというふうに思っているのと、スケボーに関してはやっぱりちょっと問題もあって、夜ガーツと家の前で滑られるとうるさいなという声も多々あるんです。

ですので、一つの場所に集約して、渋谷のシンボルとなるような、東京のシンボルとなるような公園整備ができれば、皆そこでやれる代わりに、外では遊ぶなよみたいな感じをしっかりと作れると思いますので、そのメリハリを持った施策をやっていききたいなというふうに、特にアーバンスポーツに関しては思っています。

あとは笹幡のこっちの水道道路の方ですけども、水道道路自体は都道ですので、その歩行者天国を含めて、あとは自動運転するなんか走れたりとか、そういった実験的なところはきっと東京都と膝を突き合わせないといけないかなというふうに思います。

ですが、木密エリアとか、あの所は渋谷区の場所ですので、うまくそこが連携しながら、都営団地の新しい活用の仕方を考えつつ、宮坂さんが副知事になられたということで、そ

の IOT をぐっと東京の中でうまく活用した、実験的な、象徴的なエリアにできれば、さらにそのさっき言った渋谷との企業との連携も図れますし、新しいこの東京のエンジンになると思います。

ここがうまく発達できると、中野の方面とか、京王線沿いという所にまた新しい価値、文化が生まれてくると思うんです。ですので、そのハブとなる場所として、一緒に取り組んでいただけるとありがたいかなというふうに思っております。

ちょっと、ここに実は小さく書いてあるんですけど、スタートアップエコシステムの構築と出ているんですが、今、国からスタートアップエコシステムの拠点都市を全国で選ばうということで、声が掛かっています。

渋谷区としては手を挙げたいというふうに、実は思ってます。挙げるつもりで今準備をしているんですけど、ただでさえ一番日本で IT 系が集まっていて、ベンチャーもいて、そのシステムが出来つつあるところなので、ぜひここは外さずに、地方都市でやってもらうのもいいんですけども、東京の中心でこれを、拠点都市を持つということは都にとっても大切だと思いますし、これによると国からのお金がどんどんそこに入って、新しいことはチャレンジできるようになると思いますので、こっちの笹幡水道道路のことも踏まえながら、スタートアップ拠点としても視野に入れていきたいなというふうに思います。

○行政部長 では、そろそろお時間になりますので、最後に知事の方から一言お願いいたします。

○知事 いろいろと先進的なプロジェクトをいつも渋谷区は発信、急発進と共に急実現も。最後のは確か平井大臣が、よくやってくださっていたと思うので、うまく引き継がれていることを期待します。

○渋谷区長 是非一緒になって背中を押してもらえればと思います。

○知事 今日はどうもありがとうございます。ぜひ 45 階を見ていってください。

○渋谷区長 はい、ちょっと見てみます。

○知事 お願いします。

○渋谷区長 ありがとうございました。

○知事 今日はありがとうございました。

○行政部長 意見交換を終わらせていただきます。ありがとうございました。